

情勢報告（令和2年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

サイズを確認 ～ミニトマト目慣らし会～



規格を確かめる生産者ら

7月20日、JA高知県れいほく園芸部ミニトマト部会は大豊町で目慣らし会を開催し、生産者9人が参加しました。

はじめにJAと市場から出荷規格と市況について説明があり、実際に出荷された生産物を規格毎に分けて確認しました。

普及所は高温期のかん水管理、裂果対策、病虫害防除について説明しました。

生産者は大きさの違うミニトマトを見比べながら、生産者同士で活発な意見交換をしていました。

今後も普及所は品質の良いミニトマトを安定生産できるよう、JAと協力して生産者を支援していきます。

穂肥の適期施用を～「土佐天空の郷」水田巡回～



圃場の様子を確認する生産者

7月20日、22日、23日、本山町特産品ブランド化推進協議会は、「土佐天空の郷」生産者35人の圃場を全戸巡回しました。

水稻の茎数、葉色、幼穂長を調査し、結果を基に普及所から穂肥の施用時期と施肥量について指導しました。

生産者からは、「適切な時期に穂肥を施すようにしたい」といった声や、今後発生が予想される病虫害対策についての質問等がありました。

今後も普及所は、品質・収量の向上を目指し、水田センサーで測定した水温、水位、気象データの活用や巡回指導を通じて支援していきます。

栽培環境を再点検しよう ～JAれいほくGAP環境点検～



生産者との状況確認の様子

8月3～4日、JA高知県れいほく園芸部は、GAP環境点検を開催し、部会役員、JA、町村、普及所合わせて26人が参加しました。

れいほく園芸部の全生産者のほ場を巡回し、高知県GAP第三者確認制度の点検項目に基づき、各ほ場の状況を確認しました。「労働者の安全確保と健康管理」の項目では「緊急連絡先の掲示が行われていない」等の事例もあり、改善を促し、後日実施状況を再確認することとなりました。

今後も普及所は、JAと連携してより安全で安心な農業の実施に向けて支援していきます。

嶺北地域の水稲を守る！ ～スマート農業技術セミナー・現地実演会を開催～



ドローンによる水稲防除

8月5日、本山町でスマート農業技術セミナー・現地実演会が開催され、県内の関係者54人が参加しました。

セミナーでは、本山町農業公社と普及所が連携して取り組んでいる水田センサを活用した生育ステージ予測、水管理による収量・品質の向上が紹介されました。

また、自動航行式ドローンによる水稲防除と野菜育苗用接ぎ木ロボットの実演があり、参加者からは「ドローンの導入で散布にかかる労力が大幅に軽減されることが期待される。機器やメンテナンスにかかる費用が課題なるが、購入に向けて検討していきたい」との声が聞かれました。

普及所は、今後も本山町農業公社と連携してスマート農業を活用した省力化、高品質米生産技術の確立を目指していきます。

チョロギの省力的な誘引法を検討 ～伊勢川営農組合の協業栽培支援～



「あーでもない、こーでもない」と誘引法を試す組合員

8月9日、土佐町内の伊勢川営農組合の雨除けハウスにおいて、チョロギの省力的な整枝・誘引法の検討会を開催し、組合員3人が参加しました。チョロギは同組合が協業で栽培に取り組み、販売、梅酢加工、同組合主催の交流イベントで活用されています。

近年、放任栽培では過繁茂による生育不良が問題になっていることから、普及所は過繁茂を抑制する誘引方法を紹介し、実証に取り組むことになりました。

今後普及所は、作業性や生育・収量性を評価し、作業改善と安定生産を支援していきます。

パプリカの加工品開発にむけて ～本山町みらい創造協議会加工の会～



パプリカの加工品開発を検討する参加者

8月17日、本山町みらい創造協議会加工の会は、本山さくら市内の「おむすび処こめのみみ」で、新たなおむすびメニューや、「れいほく八菜」等の加工品開発の検討会を開催し、関係者10人が参加しました。

令和3年秋から、企業参入による次世代型園芸用ハウス栽培（パプリカ）が始まる予定で、これを核とした農業クラスターの6次産業化を進める役割を協議会は担っています。会では、パプリカ加工品の課題抽出や、米ナス、トマト等も含めた加工品の方向性を検討しました。

普及所は、他産地の事例紹介や販路開拓への助言をおこないました。今後は、外部アドバイザーを活用して活動を支援します。